

山梨県立大学国際政策学部 令和5年度学校推薦型選抜・特別選抜
小論文 問題

コロナ禍の自粛モードから社会活動が徐々に回復する中、働き方や暮らし方が多様化し、例えば、都市圏と地方圏のどちらにも生活と仕事の拠点をもつ二地域居住は、ライフスタイルの選択肢を広げているのではないだろうか。以下は、二地域居住に関する新聞記事と、意義や効果を問う地方公共団体への調査結果の一部です。

まず、二地域居住を推進していくためにはどのような課題があると考えられるか、あなたの考えをまとめてください。

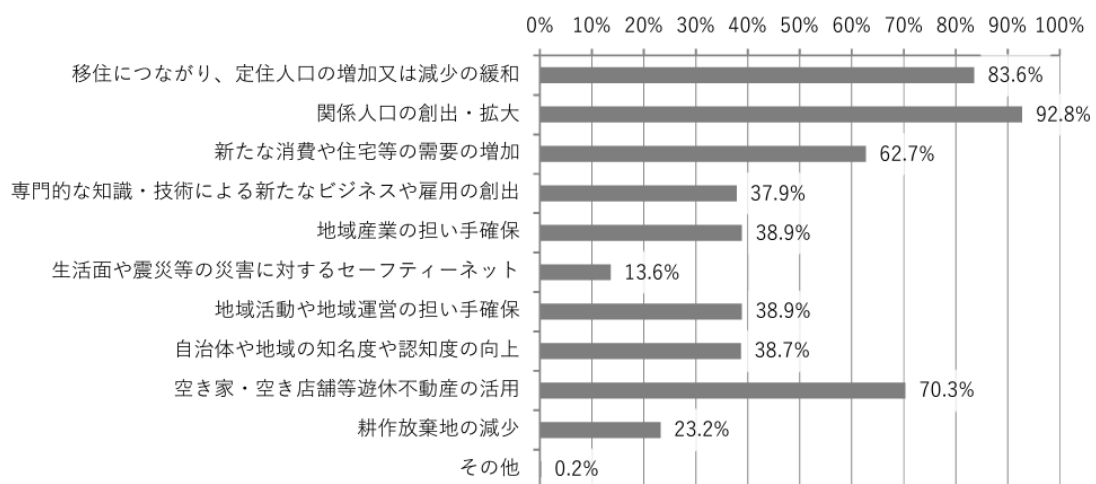
また、このような人の動きを、地方圏の活性化につなげていくためには、どのような取り組みが考えられるか、あなたの考えを具体的に論じてください。

(800字以内)

2021年に山梨県の転入者が転出者を上回った背景には、新型コロナウイルス感染拡大で普及が進んだりリモートワークと、東京圏へのアクセスのよさがある。都市と地方に拠点を持つ2拠点居住先*として山梨の人気が高まり、県の窓口寄せられる移住相談はコロナ禍以降、働き盛りの30~40代が増加。全体の相談件数も約4割増となった。

出典：山梨 東京圏へ好アクセスで人気上昇「リモート」転入後押し、『山梨日日新聞電子版』2022年1月29日より抜粋（*2拠点居住＝二地域居住）

<意義・効果があると思うもの>



(N=499)

(複数回答)

出典：地方公共団体における二地域居住等の促進に関する取組や課題等に関する調査（第1回）結果の概要について、全国二地域居住等推進協議会（2021年5月）